

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|--|-----|--|--------------------------------------|--|--------------------------------------|--|----|--|
| 名 前 | | 齊藤 正敏 | | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | | 職 名 | | 教授 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育 | 0.35 | 1.機械材料 I 及び確率・統計の講義において講義毎に演習問題を行い、理解度のチェックと履修率の向上。 2.発表のための技術英語と品質管理の講義において会話のための英作文演習、問題解決のための統計計算演習を行い、理解度のチェックと履修率向上。 3.大学院での講義を学部で講義していないデルタ関数、関数微分、ハミルトニアン、ファインマンダイアグラム等を用いた現象の解析の講義を行い、学生の数学力向上に寄与する。 | | | | 0.40 | 1.機械材料 I と確率・統計の講義で講義毎に演習問題を課することにより、合格率を9割まで上げることができた。2.技術英語に於いて10回の英作文演習と添削を行い、英作文力の向上と日本語を英語化するスピードアップをはかった。品質管理を練習問題を主体にして合格率が9割近くなった。3. 大学院の講義において数式の展開が出来るように初歩的なことも含めて丁寧に行った。 | | | | |
| 研究 | 0.35 | 1. これまで研究してきた高分子ピロールに関する研究をまとめてhigh impact factorの欧文誌に投稿し、掲載されるようにする。 2. 昨年度に量子化された共鳴電析を発見したので、これに関して科研費申請が可能となるように実験的証拠を積み重ねるための実験を行う。 3. 科研費の最終報告書を作成し、提出する。 | | | | 0.30 | 1.Impact factor 3.8であるinternational journal of electrochemcial scienceに掲載された。2.2014年度の科研費申請に使える実験データを得たので科研費申請を行った。 3. 最終報告書を作成し、提出した。 | | | | |
| 社会貢献 | 0.10 | Editorial Boardのメンバーとして三つの欧文誌electrochemistry、corrosion、ISRN materials scienceをサポートする活動、査読、出版物の提言、助言等の仕事を行い3誌の国際的評価向上及び学問の発展に寄与する。 | | | | 0.15 | 本年度は5編の論文の査読を行った。また、Microscopy: advances in scientific research and educationの第6巻に研究内容の提案を行い、1章を執筆することになった。 | | | | |
| 管理運営 | 0.10 | 研究関連の会議で提言を行う | | | | 0.05 | 委員会委員の所属はないが、可能な限り、会議に出席し、意見を述べるようにした。 | | | | |
| 進路指導 | 0.10 | 4年の指導教員として就職活動や進学について助言や指導を行う。卒論生や修士2年生については就職活動に戦略を持って臨むための指針の指導を行う。 | | | | 0.10 | 就職活動に専念できるように卒論、修論の実験計画を作り、全員卒業・修了できた。修士2年の学生は海外発表を行い、一部上場企業に内定、4年生の内、1名は家業、2名は就職活動を行い、1名は民間企業合格、1名は公務員浪人という結果であった。 | | | | |
| | 0.00 | | | | | 0.00 | | | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|---|
| 名 前 | | 古川 俊雄 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 |
| | | | 職 名 | | 教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 |
| 教育 | 0.40 | 授業に占める演習の割合を多めにして、学生の理解度が増すように務める。また、学生が興味を持てるように、科目の位置づけや実際例を含めた授業を行う。そして、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が75%を超えるような科目が多くなるように務める。 | | 0.40 | 過去の授業アンケートの要望も考慮に入れながら授業の改善に努めた結果、「3. ふつう」以上が80%で、しかも「4. よい」が「3. ふつう」に比べて多くなる科目もあって、十分な成果が得られた。 |
| 研究 | 0.40 | 関係する学会講演会等において積極的に研究発表を行う。そして、これまでに得られた成果をまとめて学術誌に投稿し、掲載されることを目指す。 | | 0.40 | 日本機械学会の九州支部鹿児島講演会(鹿児島大学)と材料力学カンファレンス(岐阜大学)において研究発表を行った。また投稿した原稿が日本機械学会の英文論文集に掲載されたことから、目標は達成された。 |
| 社会貢献 | 0.10 | 来年10月に大阪工業大学が主催して行われる国際会議の組織委員会のメンバーの一人として準備に協力する。 論文校閲依頼があれば積極的に引き受ける。 | | 0.10 | 今年10月奈良市で開催予定の国際会議は、アブストラクト受付が3月末日となり、着実に準備が進んでいる。Elsevierの学術誌から論文校閲依頼があり、積極的に引き受けた。10月に読谷村で開催された日本機械学会設計工学部門講演会では、実行委員長を務め、特別講演の講師としても職責を果たした。 |
| 管理運営 | 0.05 | 図書館運営委員会委員として全学の管理運営に協力する。 教授会、研究科委員会などで円滑な議事進行に協力する。 | | 0.05 | 図書館運営委員会委員と兼務している学術情報基盤資料選定委員会委員として、電子ジャーナルとデータベースの削減に関して11回の委員会で一定の成果を得ることができた。また、工学部広報・図書委員会や学部長、事務長と情報の共有が得られるように努めた。 |
| 進路指導 | 0.05 | 3年次夜間主指導教員として、年次別懇談会などで進路指導の助言を行う。 また、研究室所属学生については、進学や就職の情報を積極的に与え、学生満足度が高くなるように務める。 | | 0.05 | 3年次夜間主指導教員として、年次別懇談会などで進路指導の助言を行った。また、研究室所属学生については、進学や就職の情報を積極的に与え、全員の進路が確定した。次年度卒業予定学生の就職担当として、積極的に進路指導を行っている最中である。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 真壁 朝敏 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育 | 0.35 | 担当する学部の必修科目に注意を払って、ペース配分を考えて講義を行う。また、博士前期および後期の学生が成果を残して修了できるような指導を行っていく。 | | | 0.35 | 学部の講義においては、昨年度よりペースを落として学生の理解度を高めるように努力した。その甲斐あって、昨年度よりも不可になった学生数が減少した。博士前期・後期の大学院生はうまく各自の研究を遂行し論文をまとめた。そして、博士後期の院生一人が早期修了する。 | | |
| 研究 | 0.30 | 博士後期、前期および学部学生の研究指導を行いながら、一つ以上の論文を投稿する。また、他大学や沖縄工業高等専門学校との共同研究を探る。 | | | 0.30 | 複数の論文を投稿し、掲載されている。今年度は、沖縄高専の眞喜志教授、九州大学の新川教授、そして九州大学の村上名誉教授との共同研究を行っている。それらの成果は国内の学会や国際会議等に投稿している。 | | |
| 社会貢献 | 0.20 | 日本材料学会の委員として、学会の運営に協力する。沖縄県の工業技術センターの職員等との連携に協力する。そして、沖縄県の海洋資源の開発に関する委員会に協力する。 | | | 0.20 | 日本材料学会の委員として学会の運営に協力した。特に九州支部の50周年記念事業に関して、支部幹事として活動している。また、沖縄県の海洋資源の利活用に関する委員会に参加し、琉球大学産学官連携機構が関連する委託事業を獲得することに貢献した。沖縄県工業技術センターの職員とも連携している。 | | |
| 管理運営 | 0.14 | 学部・学科の一員として会議等に参加し、運営に協力する。環境施設委員会の委員として協力する。そして、防災センターの委員として協力する。 | | | 0.14 | 学部・学科の会議に参加し、積極的に意見を述べた。また、環境施設委員会の運営に協力した。島嶼防災センターの併任教員そして運営委員となって協力した。 | | |
| 進路指導 | 0.01 | 4年生の進路に関するアドバイスを行う | | | 0.01 | 大学院生および学部4年生に進路に関するアドバイスを行った。担当した研究室の学生、院生は全員無事に就職や進学ができた。 | | |
| | 0.00 | なし | | | 0.00 | なし | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 宮崎 達二郎 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | | 准教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|---|--|--|-----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケート等の指摘, 自らの発意に基づく授業の改善を試みる. ・学生実験においてTAを有効に活用し, 教育効果の改善を試みる. | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・演習問題を増やし, 学生の理解度が向上するように心がけた. ・TAには, 準備や片付けだけでなく, 実際の実験にも参加してもらい, 受講学生が気軽に質問できるよう工夫してみた. | | |
| 研究 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会誌への複数編の論文投稿を目指す. ・複数回の学会での研究発表を目指す. ・外部資金の獲得を目指す. | | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> ・材料力学カンファレンス2013(日本機械学会)などで2件の発表を行った. ・国際会議(ICF13)で1件の発表を行った. ・エレクトロニクス実装学会誌に論文が1件掲載された. | | |
| 社会貢献 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス等で, 研究成果を紹介する. | | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議で中国を訪れた際に河南科技大学で研究紹介を行った. | | |
| 管理運営 | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年次編入, 大学院等の入試業務に携わる. | | | 0.20 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年次編入で材料力学の問題の作成, 採点を行った. ・大学院入試で材料力学の問題点検を行った. | | |
| 進路指導 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー, 年次別懇談会等を利用し, 進学指導, 就職支援を行う. | | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーや空き時間等を利用し, 進路相談に対応した. | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください. ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください. ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください. | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください. | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|---|
| 名 前 | | 藤川 正毅 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 |
| | | | 職 名 | | 助教 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 |
| 教育 | 0.35 | 学生が積極的に参加できるような授業ができるように努力する。具体的には、授業と実験の目的やその工業的価値などを明確にして、学生が興味をもてる様に努力する。また、学生の理解度を確認しながら、お互いにコミュニケーションをとれるような授業環境を心がける | | 0.35 | 授業アンケートより学生の理解と評価が好評だった。授業や実験内容が社会でどのように役に立つのかをできるだけ含めるようにスライドや資料を工夫した。また小テストを通して学生の理解度を把握しながら授業を勧めた。 |
| 研究 | 0.40 | 学会誌への複数の論文投稿を目標に研究を進める。また、外部資金や共同研究の獲得を目指す。 | | 0.40 | 国内外に論文を投稿し受理された。また日本計算工学会より論文奨励賞を受賞した。共同研究2件、受託研究1件を獲得した。 |
| 社会貢献 | 0.10 | 研究に関する学科活動や勉強会に参加する | | 0.10 | 機械の日のイベントに参加して、子どもたちと物づくり体験を行った(速く走るミニ四駆づくり)。また、ゴム協会力学性質分科会の勉強会に講師として参加した。 |
| 管理運営 | 0.05 | 教授会、学科会議に積極的に参加する。また、学科内および学部内等の各種委員会に参加し協力する。 | | 0.05 | 今年度はレクレーション委員として活動した。工学部の忘年会の連絡や学科内の忘年会の企画・運営を行った。 |
| 進路指導 | 0.10 | 日ごろから学生の希望する進路や興味などを聞くようにし、状況を把握・そして適切に指導できるように準備を心がける。また、履歴書の書き方や面接など助言をする。大学院進学を考えている学生には、そのメリットや研究の興味などを可能な限り伝えるように資料作成・面談を行う。 | | 0.10 | 学生からの進路相談、履歴書の書き方などを指導した。またできるだけ、こちらから積極的に話しかけるように心がけた。学生の動向を早い段階で把握して指導することができたと思う。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | | | 1.00 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 柴田 信一 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育 | 0.30 | 機械基礎工学, 材料加工学I, 高分子合成論, 機械システム設計製図I, 機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程, 後期課程において講義をそれぞれ行う。 | | | 0.30 | 機械基礎工学, 材料加工学I, 高分子合成論, 機械システム設計製図I, 機械システム工学実験I,IIおよび大学院博士前期課程, 後期課程において講義をそれぞれ行った。 | | |
| 研究 | 0.30 | 国際的学術雑誌にて研究論文を発表する。共同研究で受託研究および奨学寄附金を得る。 | | | 0.30 | 国際的学術雑誌Bioresourcesに研究論文を投稿した。共同研究2件、受託研究1件および奨学寄附金2件を得た。 | | |
| 社会貢献 | 0.20 | 研究の実用化を行う。特許出願を行う。 | | | 0.20 | 研究の実用化に取り組み、民間企業1件と共同研究を行った。 | | |
| 管理運営 | 0.10 | 学科長, 代議員, 機械工作工場長, 入学試験委員, JABEEのFD委員長として活動を行う。 | | | 0.10 | 学科長, 代議員, 機械工作工場長, 入学試験委員, JABEEのFD委員長として活動を行った。 | | |
| 進路指導 | 0.10 | 学生の就職活動および大学院進学を支援する活動を行う。 | | | 0.10 | 学生の就職活動および大学院進学を支援する活動を行い、2名の大学院進学実績、1名の就職支援を行い、就職が決定した。1名は未定であった。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 倉田 耕治 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | | 教授 |
|--|---------------------|--|-----|--|---|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育 | 0.30 | 振動工学(1組, 2組, 夜間, 1組と2組は必修), 信号処理工学, 工業数学IIIの授業を行う。授業の最後の二, 三回で集中的に演習を行うことで, 成績と単位取得率の向上を図る。 | | | 0.30 | 不振動工学(1組, 2組, 夜間, 1組と2組は必修), 信号処理工学, 工業数学IIIの授業を行った。集中して演習を行う方法は効果を上げていて, 単位を落とす学生は問題になるほど多くない。 | | |
| 研究 | 0.30 | 大学院生, 他大学(東京工業大学, 岡山理科大学, 宮崎大学等)との共同研究をおこなう。学会, 研究会発表2~3件程度, 論文発表1~2件程度。 | | | 0.20 | 東京工業大学, 岡山理科大学, 宮崎大学との共同研究を行った。研究会発表は2件, 論文発表は1件。 | | |
| 社会貢献 | 0.10 | 電子情報通信学会論文誌の査読委員を務める。依頼があれば学会, 研究会の座長などをおこなう。 | | | 0.10 | 今年は査読, 座長の依頼を受けなかった。2014年1月11日, 北谷町で開かれた「おきなわ石の会」サイエンス・ミーティングにおいて一般向け講演を行った。 | | |
| 管理運営 | 0.20 | JABEE実施確認委員会の委員長を務める。博士後期課程総合知能工学専攻の専攻主任を務める。 | | | 0.30 | JABEE実施確認委員会の委員長を務め, 博士後期課程総合知能工学専攻の専攻主任を務めた。 | | |
| 進路指導 | 0.10 | 卒論指導の学生の就職活動をサポートする。 | | | 0.10 | 卒論指導の学生4名のうち3名は内定決定, 残り1名は当初から役者志望で4月から上京の予定。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 ・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|--|-----|--|---|--|-----|--|-----|--|
| 名 前 | | 近藤 了嗣 | | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | | 職 名 | | 准教授 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育 | 0.40 | 講義に関して、専任科目では授業評価アンケートで本学教育目標にある「普通」以上7割達成を目指して継続的改善に努める。共担科目では「普通」以上7割達成に貢献できるように努める。証拠資料はJABEE保存資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年度から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。 | | | | 0.40 | 専任科目、共担科目共に「普通」以上7割を達成した。前学期専任科目の機械システム設計製図では、エンジニアデザイン能力の養成のため、課題の自己設定、自己解決、自己評価、これらのグループワークを実施した。更にCAD操作方法の演習を今年度2週に増やす授業改善を行った。後学期専任科目の工業力学では演習回数を増やすことで、学生の理解度を高める事に努めた。また、過年度生に対する救済措置として応用工業力学を開講した。通常よりも演習回数を増やすと共に解法の手引きを教示することで、学生の理解度を高める事に務めた。結果、「普通」以上、10割を達成した。大学院の講義として機械基礎工学特論Ⅰ、Ⅱを前、後学期開講して提供科目の充実に貢献した。登録者数は15名を超過しており、「普通」以上、10割を達成した。以上、今年度の目標を達成した。 | | | | |
| 研究 | 0.30 | 現在、遂行中の研究課題の成果に関して、学会発表、学術論文執筆、投稿、掲載を目標とする。なお、研究進捗状況や研究予算、原稿執筆から投稿、査読、掲載までの期間を考慮して、年間で1件程度の学会発表、或いは論文投稿を目標とする。証拠資料は業績とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。 | | | | 0.30 | 研究課題「金属多重結晶の疲労破壊と転位の運動・蓄積のマルチスケール解析」に関して他大学の研究者と共同研究を推進した(5月に1週間研究打ち合わせのため出張)。また、これらの成果に関して日本機械学会2013年年次大会で学会発表を行った。共著にて投稿した結果、Taylor & Francis, Philosophical Magazineに掲載、公開された。なお、Taylor & Francis社は1798年に世界で最初に商業出版された科学雑誌を刊行している学術雑誌世界でトップクラスの出版社である。以上、今年度の目標を達成した。 | | | | |
| 社会貢献 | 0.05 | 産官学連携事業推進等に努める。証拠資料は関連資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、評価Bに留まっているが、実際、技術相談の頻度は稀なため、業務ウェイトは0.05とする。 | | | | 0.05 | 島嶼防災研究センターの併任准教授を務めると共に研究予算(文科省特別経費「社会科学及び自然科学の統合による自然災害の予測と分散機構の解明」)を頂き、防災研究課題の遂行に取り組み、研究を通して地域貢献に務めた。なお、研究成果は日本機械学会2013年年次大会にて発表した。また、学外企業の「造波装置」と「流体計測システム」に関して技術審査員を務めた。以上、今年度の目標を達成した。 | | | | |
| 管理運営 | 0.20 | 学科では広報委員会委員、学部では代議員、全学では情報処理センター運営委員会委員を務める。証拠資料は関連資料とする。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、目標を達成すると共に評価Aを戴いており、本目標設定は妥当と考えられる。 | | | | 0.20 | 学科では広報委員会委員、学部では代議会議員、全学では情報処理センター運営委員会委員を務めた。センター試験や二次試験監督を務め、本年度、当初の目標通り、管理運営に貢献できた。 | | | | |
| 進路指導 | 0.05 | 年次指導と卒業研究指導の担当学生に対して教育研究指導の一環として行う。なお、評価者の評価結果が公開されたH23年から毎年、評価Bに留まっているが、実際、学生が内定を得るまでの業務であるため、業務ウェイトは0.05とする。 | | | | 0.05 | 卒業研究の担当学生3名に対して、毎週一回ゼミと併行して進路相談の時間を用意した。結果、3名とも進路が決まり、当初の目標を達成した。また、年次指導教員の持ち回り担当として「現業実習」の取り纏め役を担当した。結果、学部生14名の現業実習を締結し、当初の目標を達成した。 | | | | |
| | 0.00 | | | | | 0.00 | | | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 水口 尚 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育 | 0.30 | 学生とのコミュニケーションの機会を多く取るように努力する。 担当する学生実験、基礎製図の補足資料などを準備し、学生の理解を高める努力を行う。 | | | 0.30 | オフィスの時間帯やメールアドレスを居室のドアに掲示した。 学生実験(前期:夜間主コース1テーマ、後期:昼夜1テーマずつ)と基礎製図(昼:1組)での補足説明の資料を作成・配布し、説明を行った。また、基礎製図(1組)では、学生からの授業改善アンケートの総合評価でふつう以上が86.5%であった。 | | |
| 研究 | 0.60 | 卒業研究の学生の研究指導補助を行う。 研究成果をまとめ学術講演会に参加し、学術論文を投稿する。 外部資金「天野工業研究所の研究助成」を獲得した研究を重点的に 行う。 | | | 0.60 | 卒業研究では4名を担当した。 研究成果をまとめ、国内学会(3件)、国際学会(1件)で発表し、4編の学術論文が掲載された(研究助成を受けたテーマを含む)。 | | |
| 社会 貢献 | 0.03 | 化学工学会の沖縄化学装置懇話会の活動を通して地域産業への貢 献を行う。 | | | 0.03 | 一般公開されている非常勤講師による集中講義と特別講演の補助を行っ た。 | | |
| 管理 運営 | 0.03 | 工学部選挙管理委員として、工学部の管理運営に貢献する。 | | | 0.03 | 工学部選挙管理委員会委員長として、学部・学科での選挙を取り仕切っ た。 | | |
| 進路 指導 | 0.04 | 指導担当の2年次昼間主コース(1組)の学生の履修指導を行う。 配属された卒業研究の学生に就職・進学指導を行う。 | | | 0.04 | 2年次昼間主コース(1組)の学生に前後学期の年次別懇談会を通して履 修指導を行った。特に、16単位未満除籍対策として前学期の修得単位が 10単位未満の学生(3名)については、指導教員で面談し後学期の履修指 導をした。卒業研究では4名(就職1名、進学3名)を担当した。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してく ださい。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 若井 謙介 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | | 助教 |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--|---|--|--|----|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | |
| 教育 | 0.30 | 研究室所属学生との面談を毎日行う。研究室所属大学院生への原書講読ゼミを週間で行う。 | | | 0.30 | ・研究室所属学生との面談は研究状況の報告と相談と言う形で本年度も毎朝欠かさず行っている。研究室所属学生へのゼミは外国語を含めた論文読み合わせを毎週行っている。 | | |
| 研究 | 0.30 | 大学院生2人、学部4年生3人を直接指導する。大学院2年生の学外での研究発表をサポートする。内部、外部資金への応募を行う。 | | | 0.20 | ・修士2年生1名修士1年生1名、学部4年生3人を直接指導し修士、卒業論文を完成、提出した。修士2年生の学生は自動車技術会秋季大会でポスター発表を行った。本年度も新たに科学研究費補助金への応募を行った。 | | |
| 社会貢献 | 0.10 | 産官学連携等の研究相談を受ける。 | | | 0.10 | ・株式会社日新ホールディングスからバイオエタノールハイブリッド乗用車に関する研究相談を受けた。 | | |
| 管理運営 | 0.10 | 持病の特定疾患の症状と体調を鑑みつつ学科での活動を増やす。 | | | 0.20 | ・体調は悪化したが学科会議への毎回の参加を継続する事が出来た。当番時の議事録作成などを担当した。 | | |
| 進路指導 | 0.20 | 学部生、大学院生への就職、進路相談を行う。模擬面接やグループディスカッション等を行い就職活動のサポートを充実する。 | | | 0.20 | ・研究室所属修士1,2年生、学部4年生、早期配属された学部3年生への就職、進路相談などの具体的な指導を行っている。就職活動準備としてグループディスカッションの予行と模擬面接を行った。 | | |
| | 0.00 | | | | 0.00 | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 屋我 実 | 所 属 | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | 教授 |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|--|----|
| 領域 | 業務 ウエイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウエイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育 | 0.25 | 機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行う。 成績の評価基準を明らかにして、希望する学生に公にする。またいつでも問い合わせができるように、対応を考える。 大学院後期課程の学生に国外・国内で学会発表をさせる | | 0.25 | 機械システム工学科のJABBEプログラムの教育目標に即した講義(流体力学I1組と圧縮性流体力学)を行った。さらに指導している大学院の学生に国際学会3件(中国、アメリカ、名古屋)の発表をさせた。また毎週英語によるゼミを行い、学生にとって重要な英語の動機付けをした。 | |
| 研究 | 0.25 | 国際学会への参加および国際誌への投稿・掲載を目指す。 また特許登録されたテーマの研究を積極的に推進する。 また外部資金に向けた申請を行う。学科内に熱流体シミュレーション研究会を立ち上げる | | 0.25 | 国際誌へ投稿し、3編が掲載決定となり、特許を元にした研究テーマで申請したテーマが外部資金として採択された。さらに学科内において主に熱流体の教員で、シミュレーションの研究会を立ち上げ、教員・学生とも重要な研究交流を行った。 | |
| 社会貢献 | 0.10 | オープンキャンパスを含め学科で企画された学外者対象のイベントに積極的に参加・協力する。機械学会九州支部沖縄地区会役員として、産学の連携を進める | | 0.10 | オープンキャンパスで学外者対象のイベントに積極的に参加・協力し、ちびっ子エンジニアリング等の企画では近隣の子供達への重要な大学紹介を行った。さらに産業祭りに研究テーマを紹介するために出展した。機械学会九州支部流体部門の委員として、学会の方針について意見を述べた。また工学部後援会の総会・就職説明会を開催し、産業界との連携の強化に努めた。 | |
| 管理運営 | 0.35 | 産学連携・工学部交流促進・技術部担当副学部長として学部運営に貢献する | | 0.35 | 産学連携・工学部交流促進・技術部担当副学部長として学部運営に貢献し、学部代表として、美ら島の未来を創る知の(津梁)かけ橋実施計画の工学部案をまとめた。さらに工学部ニュースを14号発行し、学部内の交流にも尽力した。また技術部の人事においても問題作成・面接を行った。また組織見直しプロジェクト イノベーションワーキンググループの工学部代表として意見を述べた。大学が被告となる裁判において、大学側証人として出廷・証言した。 | |
| 進路指導 | 0.05 | 3年次の指導教員として、履修相談 将来の職業と受講科目との関連についての説明を行い、進学・就職の相談を行う。 | | 0.05 | 年次の指導教員として、履修相談 将来の職業と受講科目との関連についての説明を行い、進学・就職の相談にのり、特に就職担当をしていた頃の経験を学生に伝え、心構えをもつことに役だった。 | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|---|
| 名 前 | | 野底 武浩 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 |
| 職 名 | | | | 教授 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 |
| 教育 | 0.35 | 担当する昼間主コース必修科目の①「熱力学Ⅰ、1組及び2組」と②「工業数学Ⅰ」および③夜間主コースの「熱力学Ⅱ」の授業で、学生からのアンケートで多かった希望を受けて教科書を変更し、新しい教科書に沿った補助教材を作り授業に役立てる。理解確認のための単元ごとの小テストを実施する。④大学院の授業「熱工学特論Ⅰ」において、物質移動工学と乾燥技術の講義内容を充実を図る。 | | 0.35 | 担当する昼間主コース必修科目の①「熱力学Ⅰ、1組及び2組」と②夜間主コースの「熱力学Ⅱ」の授業で、学生からのアンケートで多かった希望を受けて教科書を変更し、新しい教科書に沿った補助教材を作り授業に役立てた。(「工業数学Ⅰ」では、担当するほか2名の教員と相談の上変更しないことにした。)いずれの科目でも、理解確認のための単元ごとの小テストを実施した。③大学院の授業「熱工学特論Ⅰ」において、物質移動工学と乾燥技術の講義内容を充実させた。 |
| 研究 | 0.35 | ①現在投稿中の論文1編(レフリー付き)が記載されるよう努力する。②さらに、論文1編(レフリー付き)を新たに投稿する。③現在社会から求められている自然エネルギー利用(太陽エネルギー利用)とその応用の分野の研究を充実を図る。④外部資金獲得のため、科研費やソルトサイエンス研究財団などの研究助成に応募する。 | | 0.35 | ①投稿中の論文1編(レフリー付き)が記載された。②さらに、論文1編(レフリー付き)を新たに投稿し受理された。③現在社会から求められている自然エネルギー利用(太陽エネルギー利用)とその応用の分野の研究を充実させた。④外部資金獲得のため、科研費に応募した。 |
| 社会貢献 | 0.05 | ①日本化学工学会九州支部・沖縄化学装置懇話会の運営メンバーとして、運営に協力する。②学科からの要請があれば、高校訪問の大学説明会などに参加し、協力する。 | | 0.05 | 日本化学工学会九州支部・沖縄化学装置懇話会の運営メンバーとして、運営に協力した。 |
| 管理運営 | 0.20 | ①学科のJABEE教育システム委員長の継続が学科から承認されれば、昨年度の学科活動報告書の取りまとめに努力するとともに、委員長として教育システム委員会が円滑に活動できるよう努力する。また、本学科教育プログラムの改善に向けて、一昨年の実地審査の際に審査委員らから指摘された事項や、一昨年実施した本学科卒業生からのアンケート調査で明らかになった卒業生からの要望を学科の教員らに周知し、理解が得られるよう努力する。②ハラスメント相談委員および工学部ハラスメント窓口委員として、ハラスメント問題解決に向けて努力する。 | | 0.20 | ①学科のJABEE教育システム委員長の継続が学科から承認され、昨年度の学科活動報告書の取りまとめを進めている。また、委員長として教育システム委員会を円滑に運営した。本学科教育プログラムの改善に向けて、一昨年の実地審査の際に審査委員らから指摘された事項や、一昨年実施した本学科卒業生からのアンケート調査で明らかになった卒業生からの要望を学科の教員らに周知し、理解が得られるよう努力した。②ハラスメント相談委員および工学部ハラスメント窓口委員として、3件のハラスメント問題について解決又は解決に向けて努力した。 |
| 進路指導 | 0.05 | ①昼間主コース1年1組の指導教員として、学生からの履修・学習および生活、奨学金推薦などの相談に儀間准教授や水口助教とともに努力する。特に問題が生じた場合には指導教員グループの長として責任を持って対応する。一昨年実施した本学科卒業生からのアンケート調査で、最も重要だと指摘されたコミュニケーション能力と基礎学力の重要性を学生に周知し、彼らがその能力の育成に向けて努力するよう促す。②指導している卒研究生や院生からの学習や就職の相談に対し助言・指導する。 | | 0.05 | ①昼間主コース1年1組の指導教員として、学生からの履修・学習および生活、奨学金推薦などの相談に儀間准教授や水口助教とともに応じた。修学上問題が生じた学生に対し、学生の母親らと解決に向けて相談した②一昨年実施した本学科卒業生からのアンケート調査で、最も重要だと指摘されたコミュニケーション能力と基礎学力の重要性を学生に周知し、彼らがその能力の育成に向けて努力するよう促した。③指導している卒研究生や院生からの学習や就職の相談に対し助言・指導した。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|---|--|
| 名 前 | 加藤 純郎 | | 所 属 | 工学部 機械システム工学科 | |
| 職 名 | 教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウェイト 比(予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト 比(実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 |
| 教育 | 0.35 | (1) 学生の基礎学力向上 担当授業の科目(伝熱工学、工業力学等)について、基本的内容の理解に重点を置いた授業を行う。さらに特に成績が下位レベルの学生については、基礎学力をつけるべく強く指導する。 (2) 企業での経験を生かした授業の実施 授業の内容がどのように企業での業務に適用されるのかについて企業での自身の経験に基づいて紹介する。(授業例:伝熱工学) (3) 卒業研究、修士、博士論文作成に関して、研究がスムーズに遂行できるようきめ細かな指導を行う | | 0.35 | (1) 学部専門科目の授業については教科書をベースにして出来るだけ基礎的な内容に重点を置いて授業を行った(伝熱工学、工業力学、応用工業力学)。さらに、ほぼ毎回授業ごとに演習問題を出すことにより、学力向上を図った。これは学生の授業評価アンケートでも好評である。 (2) 授業、学生の研究指導やゼミにおいて、企業での自身の経験を紹介し、学生の教育・指導に反映させた。 (3) 論文作成においては、特にロジックに重点を置くよう指導を行った。(指導学生:卒研:3名, 修士:4名, 博士後期:1名(本年度修了)) |
| 研究 | 0.35 | (1) 伝熱工学、宇宙耐熱技術分野等において、学会での発表や論文投稿を行う。 (2) 再突入カプセル等の熱防御系に関わる研究を共同(九州工業大学/群馬大学/川崎重工業/琉球大学等)で実施する。 (3) 研究を遂行するうえで、外部資金の導入を計る。 | | 0.40 | (1) 研究成果について、以下の学会発表、論文投稿を行った。 国内学会発表:2件, 論文投稿:3件(掲載2件, accept:1件) (2) 熱防御共同研究(川崎重工(KHI), 琉球大)を実施(来年度も継続の予定)さらに科研費(九州工業大, JAXA, 琉大等と共同)申請中 (3) KHIとの共同研究で外部資金を導入し、研究活動に使用した。 |
| 社会貢献 | 0.10 | (1) 学外での委員会等に積極的に参画する。 (2) 回収カプセルの研究開発に関連して、そのキーテクノロジーである熱防御技術について企業支援等を行う。 | | 0.15 | (1) 本年度は特に実施せず (2) 熱防御技術について川崎重工業と共同で研究を実施し、必要な支援を行った |
| 管理運営 | 0.15 | (1) 教育の改善に関してJABEE活動等とおして積極的に貢献する。 (特に基礎学力向上を目指した取り組みを行う) (2) 2年次指導教員として、適宜学生のサポートを行う。 | | 0.05 | (1) JABEE関連委員として基礎学力向上の施策に反映するため、学生の入試成績と入学後の成績、基礎数学の授業の有効性評価の関連を調査(継続中)。 (2) 特に学生生活について問題のある学生について適宜サポート、指導を実施 |
| 進路指導 | 0.05 | 学生の大学院進学、就職活動等について、積極的に支援を行う。 | | 0.05 | 特に川崎重工業の関連会社の琉大での就職説明会をサポートした。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|--|
| 名 前 | 儀間 悟 | | 所 属 | 工学部 機械システム工学科 | |
| 職 名 | 准教授 | | | | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 |
| 教育 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> 適度に演習を実施し、講義内容の理解度を深めさせる。 他教科との関連を意識させ、どのように応用していくかを示す。 | | 0.45 | <ul style="list-style-type: none"> 伝熱工学, 熱力学I, 設計製図IIIにおいてTAを活用し演習を充実させた。 オフィスアワーを設定・公開し, 利用を促進させた。特に設計製図IIでは, 再提出(一人当たり平均で約4, 5回)の際に不明な点を指摘し理解させた。 設計製図に関わる関連科目の伝熱工学, 流体力学, 製図の基礎知識を再確認させながら指導した。授業評価アンケートでも学生からの評価は良好であった。 博士前期課程において, 社会人学生の主査を務めた。 |
| 研究 | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> 現在行っている研究を推進させ, 研究発表を行う。 | | 0.35 | <ul style="list-style-type: none"> 電子機器の冷却に関する実験および数値シミュレーションを推進した。 学術論文1件(共著), 国際会議2件(共著), 国内発表3件(共著) 学部長裁量経費の論文投稿助成(10万円)を受けた。 日本機械学会論文集の査読1件 |
| 社会貢献 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 化学工学会沖縄化学装置懇話会委員として, 活動する。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 沖縄化学装置懇話会会計担当として, 化学工学会本部や九州支部との対応, 予算および決算資料の作成等を行った。 沖縄県内の一部の製塩関係者との交流を行った。 |
| 管理運営 | 0.15 | <ul style="list-style-type: none"> JABEEの第2計画実施委員会委員として, 活動する。 学科入試委員として活動する。 | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> JABEEの第2計画実施委員会に属し, 除籍者対策の検討, 基礎数学および学生実験の見直しについての検討等を行った。 学科入試委員として, 後期日程入試の見直し, 選抜要項等の確認等を行った。 ハラスメント相談室相談員として委員会へ参加した。 |
| 進路指導 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 学科昼間主コース2年次の年次指導教員として, 学生の履修指導および進路指導を行う。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 2年次指導教員として, 履修指導, 欠席者の面談等を行った。 卒研生に対し進路相談に対応し, 全員が進路を決定した。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。 記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1)本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|-------------|--|---|--|--|
| 名 前 | 瀬名波 出 | | 所 属 | 工学部 機械システム工学科 | |
| 職 名 | | | 職 名 | 准教授 | |
| 領域 | 業務ウエイト比(予定) | 平成25年度 年度目標設定 | 業務ウエイト比(実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | |
| 教育 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> 熱機関工学I: 昨年に引き続き、教科書以外の資料、動画利用による視覚的に確認、理解できる工夫を改良する。 熱力学II: 今年度から新たな教科書を採用する。具体的なイラスト等を用い、よりわかりやすい授業を行い履修率を向上させる。 修士学生の国内学会・国際学会発表指導 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> 熱機関工学I: 教科書以外の資料として、エンジン動作アニメーション動画利用による視覚的に確認、理解できる工夫を行った。環境問題(二酸化炭素排出削減)や電気自動車なども絡めて熱機関の今後の動向などについても講義したところ、学生の興味が高かった。 熱力学II: 今年度から新しい教科書を採用した。前年度まで使用していた教科書より、具体的なイラストが使われ学生からの評判も良かった。 応用熱力学II(集中講義)開講 機械工学概論: 熱力学担当 JICA講義担当(10/15) 卒業研究(4テーマ: 主指導5名)、修士(4テーマ: 主指導4名)研究指導を行った。 修士学生の学会発表指導: 計6件 <ul style="list-style-type: none"> 比嘉正樹(国際学会1件、国内学会1件) 山城大(国際学会1件、国内学会1件) 渡部廣介(国内学会2件) 指導学生の表彰 <ul style="list-style-type: none"> 日本機械学会三浦賞(比嘉正樹) 琉球大学理工学研究科長賞(比嘉正樹) | |
| 研究 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> 関係する学会等において積極的に研究発表を行う。 成果をまとめて学会誌へ論文投稿し、掲載されることを目指す。 H25年度概算要求PJを開始・共同研究の促進(農学部、理学部、他大学) 産官学協力型研究PJ化を進める。 研究成果の広報活動を行う。 | 0.40 | <ul style="list-style-type: none"> ロッキーマシナリー賞受賞および琉球大学21世紀フォーラム講演会にて受賞講演(5/24) 学会発表9件(国内学会発表6件、国際学会発表3件) <ol style="list-style-type: none"> 微小・微量ミストを付加した後向きステップ流れの伝熱促進(ミスト量の影響) / 第50回日本伝熱シンポジウム(5/29-31) 高濃度CO2海水を利用したクビレスタ養殖技術の開発 / 日本応用藻類学会(6/1) 排出CO2を利用した海藻類の培養技術、渡部廣介、瀬名波出 / 日本応用藻類学会(6/1) Heat Transfer and Flow Characteristics of a Backward-Facing Step Flow with Mist / International Symposium (IMPRES)(9/4-6) Development of the High-Speed and Large-Scale-Culture Technology of Sea Algae Using Carbon Dioxide Dissolution Sea Water / International Symposium (IMPRES)(9/4-6) 水流速度による海藻成長量の変化 / 日本機械学会 熱工学コンファレンス2013(10/19-20) 海洋バイオマスを用いた温室効果ガスの削減と再利用 / 日本機械学会 熱工学コンファレンス2013(10/19-20) Promotion of Methane Concentration by Separation of CO2 from Digestion Gas / 第1回バイオマス国際会議(1/14) バイオマス原料としての海藻成長における二酸化炭素および流れ速度の影響 / 日本エネルギー学会バイオマス会議(1/15-16) 査読付き論文投稿6件(採択2件、投稿中4件) <ol style="list-style-type: none"> 瀬名波出, 宮藤義孝, 加藤純郎, 比嘉正樹, 屋我実, 微量ミスト付加による後向きステップ下流の伝熱促進(第1報: 伝熱促進効果の検討), 日本機械学会論文集B編, Vol.79, No.805(2013)pp.1816-1826. 宮藤義孝, 瀬名波出, 比嘉正樹, 加藤純郎, 川平卓音, 松田昇一, 微量ミスト付加による後向きステップ下流の伝熱促進(第2報: ミストを含む伝熱流動挙動の特性), 日本機械学会論文集B編, Vol.79, No.805(2013)pp.1827-1838. Izuru SENAHA, Hesham TANIGUCHI, Yousuke WATABE, Kazunari NAGAMATSU, Yoshifumi YODA, and Kunio OOSHIRO, Promotion of Methane Concentration by Separation of CO2 from Digestion Gas, 日本エネルギー学会(投稿中) Izuru SENAHA, Kazunari NAGAMATSU, Dai YAMASHIEO, Yousuke WATABE and Bidyut B. Saha, Development of the High-Speed and Large-Scale-Culture Technology of Sea Algae Using Carbon Dioxide Dissolution Sea Water, Journal of Heat Transfer Engineering(投稿中) Shinichi Shibata, Izuru Senaha, Hairul Abral, Effect of Time-Dependent Moisture Absorption on Surface Roughness of Bagasse and Oil Palm Fibers/ Polypropylene composites, Bioresources(投稿中) 瀬名波出, 永松和成, 依田欣文, 渡部廣介, クビレスタ養殖の生産性向上のためのCO2利用技術, 日本応用藻類学会(投稿中) H25年度外部資金等(計4件) <ol style="list-style-type: none"> H25年度琉球大学概算要求に採択(文科省) 沖縄県知的クラスター事業ベンチャー支援プロジェクト(沖縄県) 受託研究1件(沖縄ガス) 寄付金1件(信越化学) 研究成果の広報活動: <ol style="list-style-type: none"> 沖縄タイムス「瀬名波准教授が受賞 ロッキーマシナリー賞 琉大でCO2有効利用研究」(5/25) 台風研究会にて講演(6/29) 琉球新報「瀬名波氏が受賞 ロッキーマシナリー賞 炭酸ガス研究が評価」(7/5) 環金武海地球温暖化協議会にて講演(7/26) Mg電池・消化ガス活用・海洋バイオマス構想ワークショップ開催(9/22) アグリビジネスフェアに研究出展(産官学連携推進機構より依頼)(10/23-25) ベネッセ・進研ゼミ「高校講座高2受験チャレンジ小論文10月号テキスト 基礎研究・技術開発紹介」(11月) NHK国際放送「Science View」にて研究紹介(12/17) 株式会社リバネス「AGRI GARAGE」誌に研究内容が掲載(12月) | |
| 社会貢献 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 沖縄エネルギー・環境教育研究会委員 日本伝熱学会編集出版部会委員 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 日本伝熱学会編集出版部会委員として2回会議に参加, 3回の学会誌校正担当 学会からの論文査読依頼3件 沖縄エネルギー・環境教育研究会委員 | |
| 管理運営 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 工学部安全衛生委員会 H25年度委員長 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 工学部安全衛生委員 H25年度委員長として毎月の全学安全衛生委員会に出席 工学部安全衛生委員 工学部安全衛生マニュアル2014を編集(8年ぶりの改訂) 工学部安全衛生委員 H25年度委員長として毎月の全学安全衛生委員会に出席 とんがり研究プロジェクト委員 ユニバーシティリサーチアドミニストレーター(URA)検討WG委員 | |
| 進路指導 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 2年次3組(夜間主)指導教員として、年次別懇談会、レク、研修および進路指導を行う。 研究室学生については、進学や就職の情報を積極的に与え、学生の相談に対応する。 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 1年次3組(夜間主)指導教員として、年次別懇談会、渡嘉敷島合宿研修および進路指導を行った。 研究室学生について、中本(大学院前期課程)、比嘉正樹(大学院後期課程)への進学指導。 | |
| | 0.00 | | 0.00 | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|---|
| 名 前 | | 照屋 功 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 |
| | | | 職 名 | | 准教授 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 |
| 教育 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解を確認し、学生が「わかった」の実感を持つ授業を目指し、授業評価アンケートの総合評価「ふつう」以上が75%を超えるよう努める。 ・怠惰欠席防止および学生からの質問や意見取得促進を目的とした欠席通知メールを授業欠席者へ送るシステムをTAとともに構築し、実行する。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業中再三学生の理解を確認するよう努め、学生から質問が出るようになった。アンケートの総合評価は「ふつう」以上が100%と高い評価を得た。 ・毎回授業後に欠席学生へ出席を促すメールを送ることにより「声かけ」をおこなった。欠席学生から反省メールなどもあり、概ね好評であった。 ・「機械設計技術者試験」対策講座講師として指導し、学科合格者を増やした。 |
| 研究 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・学会講演会等への参加および報告発表。 ・ターボ機械協会沖縄地区委員会の幹事としての運営。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本機械学会講演会に参加し、研究発表した。 ・講演論文4件。 ・ターボ機械協会沖縄地区委員会の幹事としてターボ機械性能向上にむけた地区活動をおこなった。 |
| 社会貢献 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域、社会等へ向けた学科や研究内容紹介。 ・工学部後援会の理事、事務部幹事として県内外の工業会との連携。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科HPなどで研究内容、設備、学科の紹介をした。 ・工学部後援会事務局幹事として工学部の情報を発信し、後援会総会の運営などから後援会や工業連合会の会員企業の方々と交流を持った。 ・「機械のいちびっこエンジニア体験教室」を実施し、学部学科PRをした。 |
| 管理運営 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科のURGCC実施WGでの活動。 ・工学部の社会連携委員会での活動。 ・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> ・学科のURGCC実施WGで活動をおこなった。 ・工学部社会連携委員会での活動をおこない、これに伴って工学部後援会事務局幹事として後援会活動全般の管理と運営をおこなった(就職説明会、大学院生研究発表や英語・各種資格試験受験の補助など)。 ・大学院や特別編入等の入試問題作成、その他の入試関連業務をした。 |
| 進路指導 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜間主コース4年次指導教員として学生の就学・進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)。 ・保護者への成績表送付等による保護者も巻き込んだ学習・生活指導。 ・研究室、その他の学生への進路指導。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜間主コース4年次指導教員として最終学年学生の就学進学・就職等の相談(年次別懇談会、その他)を特におこない、学生を指導した。 ・成績表送付等による年次指導学生保護者も巻き込んだ学習生活指導をした。 ・研究室、その他の学生への進路指導をした。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

| 名 前 | | 那須 謙一 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | 職 名 | | 准教授 | |
|---------------------------------------|---------------------|---|-----|--------------------------------------|---|--------------------------------------|--|-----|--|
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育 | 0.70 | 卒論生3名の指導。 夜間主の複素関数論を履修していない学生に対する講義ノートの充実。 | | 0.80 | 基礎科目の単位を取得していない卒論生がいたため、卒論指導の時間が増えた。 講義ノートの内容の加筆訂正を継続。 | | | | |
| 研究 | 0.20 | ダイナミックソアリングについて従来の理論の再検討。 疲れを考慮した、生物のエネルギー収支についての理論構築。 | | 0.10 | ダイナミックソアリングについて、これまでの理論体系について精査した。 前年度から引き続き、生き物のエネルギー収支についてのモデルを検討している。 | | | | |
| 社会 貢献 | 0.10 | 水上飛行機研究会の沖縄窓口。 | | 0.10 | 以前より交流のあった水上飛行機研究会の沖縄側総合窓口となり、本年度は特に、沖縄での例会を開催、県内の航空関係者と東京のメンバーとの情報交換を行った。 | | | | |
| 管理 運営 | 0.00 | | | 0.00 | | | | | |
| 進路 指導 | 0.00 | | | 0.00 | | | | | |
| | 0.00 | | | 0.00 | | | | | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|---|--|-----|--|---|--|-----|--|----|--|
| 名 前 | | 松田 昇一 | | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 | | 職 名 | | 助教 | |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 | | | | |
| 教育 | 0.30 | 学生から積極的に意見を聞き、授業を改善する。 研究室の4年生を対象として伝熱ゼミを行う。 各卒業研究に対する英語論文ゼミおよび進捗ゼミを行う。 | | | | 0.30 | 学生から積極的に意見を聞き、その都度資料を作り対応した。 伝熱シンポジウム、宇宙科学技術連合講演会、九州卒研およびISTS(国際学会)にて学生を発表させた。 4年生・院生を対象に英語の伝熱ゼミを行った。 研究室の学部生・院生を対象に各研究分野の英語論文のゼミを年間をとおして行った。 | | | | |
| 研究 | 0.40 | 学会誌へ投稿(1~2件)を目指す。 国内発表(2~3件)を目指す。 国際学会発表(1件)を目指す。 科学研究費補助金(H25~27年度、基盤C)対象の研究を精力的に行う。 大阪大学接合科学研究所との共同研究を行う。 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行う。 | | | | 0.40 | 学会誌へ2件投稿し、掲載が決定した(機械学会、ISTS)。 国際、国内学会および研究会にて6件発表(本人:3件、学生:3件) 溶融池磁場溶接に関して大阪大学接合科学研究所との共同研究を行った。 佐賀大学海洋エネルギー研究センターと共同研究を行った。 科研に採択された研究を精力的に進めた。 | | | | |
| 社会貢献 | 0.10 | 学外の行事に参加する。 溶接学会の若手の会委員、教育委員として社会貢献に努める。 | | | | 0.10 | 機械の日イベントの「ちびっ子エンジニアリング体験教室」の企画・運営をした。 名古屋で行われた「溶接研究会」にて講演を依頼され、一般および企業や大学の若手研究者対象に講演を行った。 | | | | |
| 管理運営 | 0.10 | 学科会計委員長として教職員の方々がスムーズに研究、教育活動ができるように努める。 | | | | 0.10 | 学科会計員として学科会計に関わった。 溶接学会の若手の会委員、教育委員を勤めた。 | | | | |
| 進路指導 | 0.10 | 学生が就職や進学相談しやすい環境を作る。 2年生の指導教員として、修学サポートをする。 研究室学生の履歴書の書き方や面接の指導をする。 | | | | 0.10 | 常時、研究室に学生が集まりやすい環境を作り、研究や進路の相談に乗った。 2年次指導教員として、多くの学生の学習および進路指導を行った。 休学中の学生に両親、カウンセラーと一緒に対応した。その結果来年度より復学することになった。逮捕された学生に対し弁護士、両親と一緒に対応した。 | | | | |
| | 0.00 | | | | | 0.00 | | | | | |
| 計 | 1.00 | ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | | | 1.00 | ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 | | | | |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | | | | | |

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

| 平成25年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目) | | | | | |
|---------------------------------------|---------------------|--|-----|---|---|
| 名 前 | | 石川 正明 | 所 属 | | 工学部 機械システム工学科 |
| | | | 職 名 | | 助教 |
| 領域 | 業務 ウェイト比 (予定) | 平成25年度 年度目標設定 | | 業務 ウェイト比 (実績) | 平成25年度 年度末自己点検結果 |
| 教育 | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> 学生実験のレポートの提出状況をよくするため、メール等活用する。 情報科学演習では、メール等を活用して、課題の未提出を減らす。 講義の欠席数を減らすために、欠席する学生へメールなど、コミュニケーションを取り、指導する。 | | 0.30 | <ul style="list-style-type: none"> 実験レポートの提出状況が悪い学生には、メールで連絡し、提出を促した。 情報科学演習では、課題提出等にメールやメールリングリストの活用した。 欠席管理システム(機シス運用)の情報を元に、欠席の多い学生に対し、メールでの確認および欠席回数の多い学生には直接面談を実施した。 |
| 研究 | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> 国際学会や国内学会へ積極的に参加し、成果を発表する。 | | 0.50 | <ul style="list-style-type: none"> ターボ機械協会誌にて、論文1編(2014年2月)が掲載された。 可視化情報学会(新宿, 7/16-17)にて、座長および講演発表を行った。 混相流学会講演会(信州, 8/9-11)にて、座長および講演発表を行った。 ISMTMF(混相流計測技術国際会議, 広州, 12/13-15)にて、座長および講演発表を行った。 |
| 社会貢献 | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 日本混相流学会における委員会へ参画する。 国際会議ISFV2014-OkinawaのLocal committeeとして活動する。 | | 0.10 | <ul style="list-style-type: none"> 混相流学会リエゾン委員(混相流計測技術分科会)に参加した。 来年開催の国際会議に向け、現地委員として会場視察やOCVB等との連携を進めている。 |
| 管理運営 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 広報図書委員として、活発に学外向け広報に励む。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 学部発行する、「案内」、「広報」、「研究最前線」等、教員への周知および編集を行い、外部への活動の周知を行った。 |
| 進路指導 | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> メールまたはゼミ等を活用し、進路状況を把握するとともに、情報を提供する。 | | 0.05 | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は公務員志望学生であったため、ゼミ等で就職状況の確認に努め、院への進学を勧めた。 |
| | 0.00 | | | 0.00 | |
| 計 | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 | | 1.00 | <ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 |
| ※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 | | | | <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。 | |